



第9号
発行
大阪市東住吉区山坂5丁目
11番21号 TEL 06-699-8731
FAX 06-699-8734
社会福祉法人
愛徳福祉会

皆様の投稿を
お待ちしております

年頭所感

理事長 梶浦 一郎

本年一月四日午前九時より大訓練室に職員一同を集め、梶浦一郎理事長より新年にあたっての訓話が行われた。



年頭のあいさつをする梶浦理事長

みなさん、おめでとうございます。昨年中はいろいろとありがとうございました。お陰様で世の中は不況、不況といわれておりましたが何か私達の方へも少しは風が吹いてきたという感じが持たれるような状態になりました。

このような状態を暫らく続けて私達の園の体力をしっかりとつけていきたいと考えております。ただ、世の中は本当に混沌としておりますから、いっとういことにな

ります。それを全部読み返して見ましたが、世の中の目まぐるしい動きというのは本当に想像を絶するものがあります。いろいろな評論家や著名人でも実際、来年、再来年ほどのようになっていくのかというのを明確に言えない状態であると思います。それ程、分らない時代に入っていると思います。「葦」を読み返してみても、気がつきますことは、以前は、それ程はっきりと意識していた訳ではな

いいます。実は、もう一つ教育というKがあります。これは、消費者である生徒にばかり競争させて、校内暴力や登校拒否という消費者の反乱が起っており、それを姑息な手段を使って今やっておりますが、これの改善には少し時間が必要でしようが、しかし、もう既に改革が始まりつつあることは、後程お話しいたします。

このように、消費者の利益といえますか、消費者側に立った施策ということについて、この一連の改革を申し上げてきた訳ですが、さて、この一年間だけを通じて見ますと、まず第一に私の一番印象に残りましたのは、やはり、カンボジアの問題でありました。

たまたま、そこで亡くなった一人の若者が大阪の人であったというところもありませんが、それ以上に私達の本来に知らない間に、こういう若者が出てきたということ、しかも、その最高責任者であった人が日本人であった。三十何ヶ所のPKOがあるそうですが、その中で唯一成功したのがカンボジアであった。そして、カンボジアに平和をもたらすことができたということ、これは、いろいろな評論家や一部の政治家、あるいは「マスコミ」等が失敗することを期待するような予測をしていたと思っておりますが、それを見事に裏切った出来事だったと私は非常に感銘を受けました。

なるか分りません。油断をせず心を引き締めてやっていきたいと思っております。年頭に当り、一言例年のようにお話ししたいと思っておりますが、こういう挨拶を始めてから、それが「葦」という機関紙に残るようになってまいりました。もう九年になります。

次に、健康保険が昨年、第二次医療法の改正で量から質へと転換してまいりました。これも、ただ増やせばいいというものではなく、量は充分確保されたから、今度は患者さん本位に質へ転換せよということであつたらうと思っております。このことについては、後程申し上げますので、それ位にしておきます。昨年は、遂に最後に残ったのが踏み出されました。本当に形骸化した食糧管理法によって米ががんにじめられ、我々消費者には殆んど何も益がなかったと思っております。それを何とかいけるめて生産者保護ばかりに走っていた訳ですが、遂にその一角が崩れたというところであります。このように生産者寄りの体制が否定される施策が次々に打ち出されてきているのが大きな一つの流れだろ

うと思っております。このように、先程の四つ目のKで申しましたように、戦後から長く続いた少し片寄った面をもった教育にも拘わらず良識を持った、そして本当の地球人が力強く育ちつつあるということを感じました。消費が減るにつれ、四つ目のKにも風穴があくことになると思われま

す。みなさんに、それをどうせよということではないんですが、しかし、世の中を大きな目で見て頂いて私達が地球の中に住んでいる一員として何をすべきか、狭い国の中に閉じこもって、自分達のことだけを見ていたのでは駄目だということ、やはり考えて頂きたいと思っております。

少し地球に優しい質素な生活ということも心掛けていきたいものだと思います。質素といっても、戦前のようなものに戻れという意味ではなくて、常識的なところへ行くべきだと考えております。政治的なことはそれ位にしまして、先程少し言いました医療法の改正についてお話しをしておきま

(2面につづく)

ります。つまり、地域社会全体を含めて体制を作らなければならぬと第一条の3に謳われています。単なる病院や診療所ではなく、居住しているところ、その地域全体を含むという内容と場所、そういうことが非常に広がってまいりました。

第三に、医療の担い手は、医師、あるいは歯科医師であった訳ですが、今回の改正で、医師、歯科医師のみでなく薬剤師、看護婦、その他となっております。何故、薬剤師、看護婦だけがたのかよく分らないんですが、少くとも「その他」という言葉で薬剤師、看護婦、その他のパラメディカルが医師と同等の扱いで述べられておりこれは非常に大きな変革であろうと思います。

第一条の2でリハビリテーションといながら、リハビリテーションという活動、この園の活動というのが本当にその通りになってき

キリンビール(株)、吉原千鶴代、大阪府玩具人形屋協同組合連合会、山口裕嗣、(株)日本魚肉ソーセージ協会、(株)読売光と愛の事業団、(株)平岡企画、キングダムハイム、小泉達也、鳥取県大東町農業協同組合、松居小由里、宮沢民人、小林製菓(株)、高彦一、寺島、山口勝己、北野瑛子、大阪梅田東ロータリークラブ、中村和夫、吉村智佳子、大阪菓業青年クラブ、加藤外紀世、尾上勝己、カルビー(株)、梅田地下センター商店街振興組合、ニシキ薬局、大阪本場青果卸売協同組合、内山一二三、読売新聞大阪本社、学校図書館による本いっばい運動推進連盟、大萩成男、池本厚

ている。あるいは認知されてきているということは何度も申し上げてきたと思いますが、経済的な面だけではなくてこういう理念の面でも認知されてきているということと心得ておいて頂きたいと思えます。

さて、その医療の中で消費者に対する扱いをどうすべきかを考えますと、医療の中で消費者といえますと患者さんです。私達はそれに対する生産者、医療を行う側であります。やはり、先程の一つの流れでありまして、全てが消費者本位になってきております。だから、医療もそうでなければなりませんので、あくまでも私達は謙虚であらねばならないと思えます。そして、消費者に選ばれるものでなければ生き残っていくことができません。これは技術の面だけでなく居住性、あるいは人間関係、患者さんごとの側との関係、そういうことも全て含めて、思いやりのある、そして深みのあるものでなければならぬと思えます。

幸い、このボバース法は、いたずらに理論が先行しているのではなくて、まづ、手を下して子供を扱います。これを私達は、ハン

ドリングと申しますが、手を下してみても、そして子供の反応を見ながら子供に合ったプログラムを作っていくのが中心的な考え方であるということはご存知だろうかと思えます。つまり、その真髄は患者さん本位の方法であるということです。プログラムに患者さんを合わせるのではなく、患者さんに合わせた、子供に合わせたプログラムを作っていくという精神でありますから、これは全くそういう患者さん本位の考え方に適合した方法だと思えます。治療にマニアル化ということは絶対に許せない訳であります。

従って、今後非常に困難なことがあるらうと思えますが、我々が生き残っていくためにも、このボバース法の真髄でありますプログラムを子供に合わせた作って行くという困難な作業を続けて行かなければならないと思えます。

この十年間を簡単に振り返って見ましたが、大きな流れは、やはり消費者本位の社会になりつつある、あるいは地球本位の社会になりつつあるということを銘記してこれからの十年を私達はどのような生活で生きていかなければならないか、そして、今年はその第一歩として頑張っていかなければならないということを申し上げ年頭の挨拶といたします。

どうも有難うございました。

◆夏休み期間中(七月二十六日～八月二十七日)に学童、中学生OBの勉強、遊び相手として

◆大阪ボランティア協会サマーボランティア計画、今宮高校、清恵会リハビリテーション学院、当園退園児の野田君、関戸君三十名、延べ二七名

◆七月三十一日 夏まつり

◆常盤会短期大学五名、浪速短期大学五名、大阪教育福祉専門学校校五名、東大阪短期大学五名、梅花女子短期大学二名、千代田短期大学二名、キリスト教短期大学二名、社会人一名

◆十月十七日 運動会

◆浪速短期大学一名、社会人三名

◆一月二十三日 もちつき大会

◆田中、夕凧、市岡町会有志十一名

◆両親教室 延二七〇名

◆五月三十日 親子の集い

◆城南短期大学 二名

◆七月二十四日～二十五日 合宿

◆常盤会短期大学一名、東大阪短期大学一名、華頂短期大学一名、日本福祉大学一名、大阪経済大学二名

◆十一月二十八日 生活発表会

◆通訳(堺市の登録者)二名

◆十月八日～十月十五日の一週間年長者の勉強、遊び相手、在園児の遊び相手として

◆滋賀大学教育学部の岡田さん

◆二階病棟運動クラブのお手伝いを毎週金曜日午後六時～七時

◆大阪総合福祉専門学校院の佐々木君、地道君

◆北病棟運動クラブのお手伝いを毎週月曜日午後六時～七時

◆大阪総合福祉専門学校院の鴻上君、小田君

◆北病棟運動クラブのお手伝いを毎週火曜日は午後六時～七時

◆関西医療学園専門学校理学療法科の中村さん、豊川さん、李さん

◆七月三十一日 夏まつり

◆常盤会短期大学五名、浪速短期大学五名、大阪教育福祉専門学校校五名、東大阪短期大学五名、梅花女子短期大学二名、千代田短期大学二名、キリスト教短期大学二名、社会人一名

◆十月十七日 運動会

◆浪速短期大学一名、社会人三名

◆一月二十三日 もちつき大会

◆田中、夕凧、市岡町会有志十一名

◆両親教室 延二七〇名

◆五月三十日 親子の集い

◆城南短期大学 二名

◆七月二十四日～二十五日 合宿

◆常盤会短期大学一名、東大阪短期大学一名、華頂短期大学一名、日本福祉大学一名、大阪経済大学二名

◆十一月二十八日 生活発表会

◆通訳(堺市の登録者)二名

◆七月三十一日 夏まつり

◆常盤会短期大学五名、浪速短期大学五名、大阪教育福祉専門学校校五名、東大阪短期大学五名、梅花女子短期大学二名、千代田短期大学二名、キリスト教短期大学二名、社会人一名

◆十月十七日 運動会

◆浪速短期大学一名、社会人三名

◆一月二十三日 もちつき大会

◆田中、夕凧、市岡町会有志十一名

◆両親教室 延二七〇名

◆五月三十日 親子の集い

◆城南短期大学 二名

◆七月二十四日～二十五日 合宿

◆常盤会短期大学一名、東大阪短期大学一名、華頂短期大学一名、日本福祉大学一名、大阪経済大学二名

◆十一月二十八日 生活発表会

◆通訳(堺市の登録者)二名

ボランティア

本園、分園のこの一年間のボランティア活動は次の通りです。ありがたございました。

本園

◆鶴ヶ丘駅構内二カ所のバギー置場の整理
 整頓、清掃を月一回
 ◆南田辺地区民生、児童委員協議会婦人部のみなさん

分園

◆北病棟、二階病棟のシューズ交換のお手伝いを、毎週木曜日午前中
 ◆南田辺の川口芳子さん
 ◆夏休み期間中(七月二十六日～八月二十七日)に学童、中学生OBの勉強、遊び相手として
 ◆大阪ボランティア協会サマーボランティア計画、今宮高校、清恵会リハビリテーション学院、当園退園児の野田君、関戸君三十名、延べ二七名

あさしお園

◆七月三十一日 夏まつり

◆常盤会短期大学五名、浪速短期大学五名、大阪教育福祉専門学校校五名、東大阪短期大学五名、梅花女子短期大学二名、千代田短期大学二名、キリスト教短期大学二名、社会人一名

◆十月十七日 運動会

◆浪速短期大学一名、社会人三名

◆一月二十三日 もちつき大会

◆田中、夕凧、市岡町会有志十一名

◆両親教室 延二七〇名

◆五月三十日 親子の集い

◆城南短期大学 二名

◆七月二十四日～二十五日 合宿

◆常盤会短期大学一名、東大阪短期大学一名、華頂短期大学一名、日本福祉大学一名、大阪経済大学二名

◆十一月二十八日 生活発表会

◆通訳(堺市の登録者)二名

ゆうなぎ園

◆大阪港ロータリークラブ、港区善意銀行、大阪府共同募金会、港区社会福祉協議会民生委員、児童委員連盟(歳末見舞金)、港遊戯業組合

あさしお園

◆旭区社会福祉協議会(山田良太香典)、港区善意銀行、父母会、港区社会福祉協議会民生委員、児童委員連盟(歳末見舞金)、港遊戯業組合

あさしお園

◆キリンビール(株)、大阪府玩具人形屋協同組合連合会、(株)日本魚肉ソーセージ協会、読売光と愛の事業団、(株)平岡企画、鳥取県大東町農業協同組合、ボランティア

あさしお園

◆大阪港ロータリークラブ、港区善意銀行、大阪府共同募金会、港区社会福祉協議会民生委員、児童委員連盟(歳末見舞金)、港遊戯業組合

あさしお園

◆旭区社会福祉協議会(山田良太香典)、港区善意銀行、父母会、港区社会福祉協議会民生委員、児童委員連盟(歳末見舞金)、港遊戯業組合

あさしお園

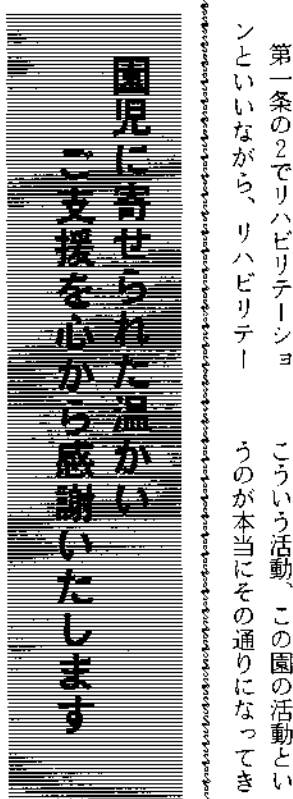
◆キリンビール(株)、大阪府玩具人形屋協同組合連合会、(株)日本魚肉ソーセージ協会、読売光と愛の事業団、(株)平岡企画、鳥取県大東町農業協同組合、ボランティア

あさしお園

◆大西典喜、中川正三、大阪天王寺ロータリークラブ、岸上総治、南田辺民生委員会、日進交通(株)、青木久一、南田辺小学校P・T・A、小林美智子、山口裕嗣、中谷善秋、広江淳朗、篤志家、大和郡山市社会福祉協議会、高野口町社会福祉協議会

あさしお園

◆古谷義信、雑巾を縫う会、創味食品工業(株)、大阪昭和会、愛媛県青果農業協同組合連合会、溝上正(株)島津有職堂、樋爪徹男、前田治雄、大阪東住吉ライオンズクラブ、



本園

▲寄附金

◆大西典喜、中川正三、大阪天王寺ロータリークラブ、岸上総治、南田辺民生委員会、日進交通(株)、青木久一、南田辺小学校P・T・A、小林美智子、山口裕嗣、中谷善秋、広江淳朗、篤志家、大和郡山市社会福祉協議会、高野口町社会福祉協議会

▲寄贈品

◆古谷義信、雑巾を縫う会、創味食品工業(株)、大阪昭和会、愛媛県青果農業協同組合連合会、溝上正(株)島津有職堂、樋爪徹男、前田治雄、大阪東住吉ライオンズクラブ、

あさしお園

▲寄附金

◆旭区社会福祉協議会(山田良太香典)、港区善意銀行、父母会、港区社会福祉協議会民生委員、児童委員連盟(歳末見舞金)、港遊戯業組合

▲寄贈品

◆キリンビール(株)、大阪府玩具人形屋協同組合連合会、(株)日本魚肉ソーセージ協会、読売光と愛の事業団、(株)平岡企画、鳥取県大東町農業協同組合、ボランティア

ゆうなぎ園

▲寄附金

◆大阪港ロータリークラブ、港区善意銀行、大阪府共同募金会、港区社会福祉協議会民生委員、児童委員連盟(歳末見舞金)、港遊戯業組合

あさしお園

◆旭区社会福祉協議会(山田良太香典)、港区善意銀行、父母会、港区社会福祉協議会民生委員、児童委員連盟(歳末見舞金)、港遊戯業組合

あさしお園

◆キリンビール(株)、大阪府玩具人形屋協同組合連合会、(株)日本魚肉ソーセージ協会、読売光と愛の事業団、(株)平岡企画、鳥取県大東町農業協同組合、ボランティア

あさしお園

◆旭区社会福祉協議会(山田良太香典)、港区善意銀行、父母会、港区社会福祉協議会民生委員、児童委員連盟(歳末見舞金)、港遊戯業組合

あさしお園

◆キリンビール(株)、大阪府玩具人形屋協同組合連合会、(株)日本魚肉ソーセージ協会、読売光と愛の事業団、(株)平岡企画、鳥取県大東町農業協同組合、ボランティア

あさしお園

◆大西典喜、中川正三、大阪天王寺ロータリークラブ、岸上総治、南田辺民生委員会、日進交通(株)、青木久一、南田辺小学校P・T・A、小林美智子、山口裕嗣、中谷善秋、広江淳朗、篤志家、大和郡山市社会福祉協議会、高野口町社会福祉協議会

園内研修会

八月・十二月に開催

平成5年度の国内研修会が本園、分園に分れ次の通り開催されました。

第二十一回

平成5年8月7日午前10時
(本園・分園合同)

《講演》

「子供の虐待の実態と援助」
大阪府立母子保健総合医療センター 成長発達科部長
小林 美智子先生



小林美智子先生

第二十二回

平成5年12月25日午後2時

《演題》

「脳性麻痺(痙直型両麻痺)の療育について」
講師 ポバース記念病院 鈴木 恒彦先生

発表 訓練部 梶島 昭子
坂口 和代

なお、研修会終了後、講義室で打ち上げ懇親会が開かれ、各部署から集まった参加者がお互いの労をねぎらい時間の経つのも忘れて和気あいあいとした懇親が繰り広げられました。

学会発表

《診療部》

▼平成5年8月7日

近畿小児整形外科懇話会(当園)
「四肢先天奇形の一例」
「脳性麻痺の内歩歩行、足部変形に対する手術」
矢田 定明

▼平成5年5月20日～22日(仙台市)

第30回リハビリテーション学会「脳性麻痺の日波の計測」
矢田 定明

《訓練部》

▼平成5年1月31日

第4回大阪府理学療法士学会(大阪市)

施設見学のみなさん

平成5年1月～12月迄

本園 ▼寝屋川市立療育自立センター3名 ▼堺看護専門学校20名
▼宮崎県立宮崎南養護学校2名
▼長野県精神保健センター1名
▼南海福祉専門学校13名
▼富山県立高志学園3名
▼大阪府肢体不自由者協会約20名
▼国立大阪病院附属看護助産学校30名
▼大阪市立小児児童相談所14名
▼大阪市立小学校教育研究会住吉支部10名
▼北九州市立総合療育センター1名

ゆつなぎ園

平成5年12月25日
▼聴覚活用の評価と方法
▼5才児の発音明瞭度検査
▼音楽活動の現状と展望—その是非について—

中市

「入園におけるADL指導とチームワーク—入浴場面を中心に」
斎藤 恭子

「脳性麻痺児の食事指導」
吉原 路子

▼平成5年10月7日～8日

第28回日本理学療法士協会全国研修会(大分市)
「重症脳性麻痺の理学療法」
今川 忠男

▼平成5年11月1日～2日

日本語療法学会(高松市)
「重症心身障害児に対する早期摂食訓練の一例」
中野真理子

▼平成5年11月6日

第13回近畿作業療法学会(奈良市)
「当園通園部におけるグループ

▼大阪市立厚生女学院18名
▼国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院1名
▼国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院4名
▼愛徳整肢園4名
▼島根県歯科医師会1名
▼大阪教育大学教育学部10名
▼名古屋市わかさ学園1名
▼羽曳野市保健福祉部11名
▼大阪千代田短期大学27名
▼富山県高志通園センター1名
▼金沢大学医療技術短期大学部1名
▼大阪市民生局福祉部児童家庭課8名
▼筑波大学附属桐が丘養護学校2名

あさしお園

▼堺市福祉指導課5名
▼銅座幼稚園2名
▼港保健所2名
▼平野養護学校2名
▼ポバース記念病院8名
▼京大医療短期大学3名
▼大阪府肢体不自由者協会17名
▼鶴見保健所1名
▼三

OTの紹介—二歳児のプログラムを中心に—
渋谷 四季

「年長CP児に対する作業療法の紹介」
中 和美

『學術論文』

「理学療法学」
「重症脳性麻痺の理学療法」
今川 忠男

▼理学療法ジャーナル

「脳性麻痺児に対する理学療法技術の進歩と課題」
今川 忠男

▼理学療法

「運動学習理論の理学療法への応用—姿勢と運動の制御—」
今川 忠男

▼大阪府理学療法士会誌
「脳性麻痺児へのADL援助」
彦田 龍兵

先小学校1名
▼伊丹市ささら幼稚園5名
▼西宮養護学校2名
▼亀岡市保健所2名
▼西淀川養護学校22名
▼堺市錦西保育所1名
▼堺市保健部運営課2名
▼堺市北福祉事務所2名
▼三重県立度合養護学校紀州分校1名
▼光陽養護学校7名
▼保護者10名

ゆつなぎ園

▼泉北手話サークル20名
▼里山小学校1名
▼関西女子短期大学17名
▼亀岡市保健センター1名
▼大阪経済大学1名
▼ひばり学園2名
▼東大阪短期大学2名
▼松原手話サークル21名
▼ろうあ会館手話サークル21名
▼愛知教育大学5名
▼大阪府肢体不自由者協会17名
▼榎塚幼稚園2名
▼旭丘保育所1名
▼近畿盲ろうあ難聴(幼)児施設協議会10名
▼泉北ピジョン教室7名

《通園部》

▼平成5年10月14日～15日
第38回全国肢体不自由児療育研究大会(別府市)
「他傷行為を繰り返す症例に対する個別保育の試み」
水野 紀代

▼平成5年7月29日～30日

全国盲ろうあ難聴(幼)児施設長協議会
「ゆつなぎ園の聴能について」
—その変化と今後を考える—
広瀬 直礼



▼市立豊学校4名
▼岸辺第一小学校1名
▼寝屋川ピジョン教室3名
▼日本福祉短期大学1名
▼小丸幼稚園1名
▼一宮豊学校1名
▼豊中市立身体障害者センター1名
▼ひまわり10名
▼保護者3名

◎ゆつなぎ園 手話通訳

1月26日	ろうあ会館	2名
4月21日	"	2名
4月23日	"	2名
5月12日	堺市登録通訳	2名
5月30日	ろうあ会館	2名
6月1日	"	2名
6月30日	"	1名
8月23日	"	2名
9月12日	"	1名
9月13日	"	1名
9月24日	堺市登録通訳	2名
10月2日	ろうあ会館	2名
12月15日	"	1名
	目塚市登録通訳	1名
	豊中市登録通訳	1名

職員のみ乗り入れ 全面禁止

国内駐車場

自動車通勤する職員が増え、本来利用者のための園の駐車場が朝からその車で占められていた。そのため、利用者の路上への駐車が多く、地域の方からの苦情が相次ぎ迷惑をかけていた。

そのため猶予期間を設け、平成5年12月1日から全面的に駐車場への乗り入れを禁止することにしました。

従来、駐車を認めていた職員の理解を得て、スムーズに事が運ぶだことを感謝している。

看護部・訓練部体制を改革

病棟・二階病棟に母子入園を増床 訓練・治療単位を一日九単位に

入園児の減少等に伴い、園の経営状態が悪化、逼迫してきたため大下園長の指示のもとに、平成5年2月から拡大経営検討委員会において、その対応策を協議した。そして、4月から訓練時間の変更、9月から病棟体制の改善を実施、新しいシステムで運営されることになった。

病棟

療育の質を落さず、職員の負担をできるだけ少なく、そして療育の効果も上げる方法として母子入園の増床を図った。

そのため、2階病棟の7・8号室を各2人部屋、9号室(プレイルーム)は4人部屋にし、母子用のベットを8床に増やした。5号室をプレイルームにし、1・2・6号室の3室は、従来通り、それぞれ8人部屋の単独入園用とした。

2階病棟の定床は32床と変らないが、母子入園を増やすことにより、ベットの稼働を挙げたいと考えた。2階病棟5号室で行っていた手術前後の管理は北病棟の5号室をアコーディオンカーテンで仕切り南側(6床分)を管理病室にした。この管理は多くても4名迄とし、北病棟の定床は42名になった。

これらの改善に伴い、必要な施設の整備、備品の購入は急を要する箇所から順次行った。



訓練

また、北病棟で手術前後の管理を行うためのスタッフ間の勉強会や研修が集中的に行われた。

北病棟で、手術前後の管理を行うことになり、入園児の定床を6名減らしたため、9月より看護婦も1名減とした。従って、北病棟の看護要員は、保母、看護助手を含め27名となった。

診療報酬の夜間看護加等がつけば、その収入が看護婦一人分の人件費になると考え、長い間の念願である2階病棟の看護婦1名増員となるので、これの申請をしたが、土、日の看護体制では夜間看護料は認められず、9月より再び、2階病棟の看護要員の定数は従来通り19名に戻った。

このように、母子入園のベットは増えたが、入園の定数は74名に、看護婦の定数も減らすことになった。

病棟体制を変更し、まだ数ヶ月しか経過していないが、現在のところ母子入園は殆んど満床であり、全体の入園児数も70名以上で推移しており、この改善によりベットの稼働は良好となっている。

当園で開催した講習会

ボバース・コース

平成5年1月11日～3月5日

講師：今川忠男 西脇美佐子

彦田龍兵 茂原直子

発達障害児に対するプレ・ス

ピーチの評価と治療の実際

平成5年6月18日～6月29日

講師：今川忠男

脳性麻痺児療育多職種講習会

平成5年7月17日～7月18日

平成5年7月24日～7月25日

平成5年7月31日～8月1日

講師：今川忠男 西脇美佐子

日本理学療法士協会長期講習会

(脳性麻痺児の評価と理学療法

の実際)

平成5年7月26日～7月31日

講師：今川忠男 西脇美佐子

平成5年度 社会福祉法人・愛徳福祉会 新入職員研修プログラム

	4月1日(木)	4月2日(金)	4月3日(土)
9:00	社会福祉法人愛徳福祉会 入職式 ☆辞令交付 ☆理事長挨拶 ☆園長挨拶 ☆新入職員自己紹介 ☆管理職紹介	措置費体系と医療費の仕組みについて 南大阪療育園 事務部長 丸山浩一 社会人としての基本的なありかたと心構えについて 南大阪療育園 代表取締役 北山卓男氏	南大阪療育園のシステムについて 南大阪療育園 園長 保幸男 " 今川忠男 " 早水裕子 " 通園部 野村主司 " 診療部 MSW 中村ヨシ
10:00	就業規則の説明 諸手続きについて 南大阪療育園 総務課長 谷田章	肢体不自由児に対する医療 南大阪療育園 園長 大下舜治	研修レポートは4月5日(月)に提出すること。
11:00	昼食・休憩	昼食・休憩	
12:00	新入職員の心得について 大阪府社会福祉協議会 富長氏 大阪社会福祉協議会 相談室 大久保 才一	社会福祉法人・愛徳福祉会の療育理念 社会福祉法人・愛徳福祉会 理事長 梶浦 一	
13:00	職業人としての自覚 社会福祉法人・愛徳福祉会 理事 米沢	障害児と親子関係について あさしお園・ゆうなぎ園 園長 西條 正晴	南大阪療育園見学 17:00 懇親会
14:00	最終日に提出された研修レポートの一部を抜粋して紹介します。 「全てはバランスが大切である」、「深い思いやりを持った最高の療育」という三つのキーワードが特に印象深く心に残っています。		

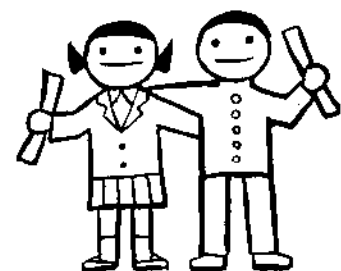
新入職員研修会開催

十四名が参加

平成5年度の新入職員研修会が四月一日から三日間別掲のプログラムで開かれ十四名が参加されました。

最終日に提出された研修レポートの一部を抜粋して紹介します。「全てはバランスが大切である」、「深い思いやりを持った最高の療育」という三つのキーワードが特に印象深く心に残っています。

三日間を通して非常に強く印象に残ったことは、私達の仕事はチーム医療の中の一環を担うものであり、また組織人としての



自覚を持って行動していかなければならないということと人間性を要求され、またそれが必要な職業であるということでした。

不安がいっぱいで自分の方向さえも失いかけていた入職式でしたが、先生方の話しを聞いているうちに「自分にできることをしていこう」と一歩前進できたように思います。これからも今の気持ちを忘れずに少しずつ前進を続けていこうと思います。

障害児をもつ親の気持ちを感じながら仕事に励みたい。そして種々の職種の方と連携を取りながら働くことが大切なので人間関係、言葉使いに注意し、コミュニケーションをとっていく努力をして行こうと思います。

研修を通じて、園が対象者に対し真剣で誠実な気持ちで接遇しようとしているのかという姿勢を第一に学ばせて頂きました。その中で自分がすべきことは自己を磨き成長することで子供さん、ご両親に初心を忘れず接していきたいと思えます。

研修を通じて、はじめて自分のおかれている立場や自分がこれからしなければならないことなどが分った気がします。それは子供にとって最高の療育をすること、その療育とは、根気よく、明るくそして楽しく子供たちに接することだと思えました。

勤続十年表彰

平成五年五月一日付で勤続十年表彰の受賞者は七名です。表彰状と副賞(①商品券十万円、②商品券五万円と特別休暇十日より選択)が授与されました。

《受賞者》

- ▼清家美津子(北病棟) ▼高橋 絢子(二階病棟) ▼太勝次(事務部)
- ▼福岡延江、向井貞義(あさしお園) ▼下司美奈、河本環(ゆうなぎ園)

職員慰安会

本園

平成五年年度の職員慰安会は、久しぶりにグループに別れて十一月から十二月の間に実施し、十七組百四十一名が参加した。

行き先は特に限定せず、親睦が一層効果的になるよう自由に決めてもらったが、結果はバラエティーに富み、和食系八組、フランス料理系六組、中華系二組の食事会、他に伊勢一泊旅行組や温泉健康ランド組もあり、さぞや盛り上がったことでしょう。

あさしお園・ゆうなぎ園

◎グループ1

日時 十二月十五日午後六時
会場 難波 サウス タワーホテル 35F ベルビュ
参加者 二十五名

久しぶりの両園合同の慰安会、サウスタワー35Fからの夜景を全員で堪能したあと食事会、お楽しみゲームと一九九三年の最後を飾る楽しい思い出となりました。

◎グループ2

日時 一二月五日午後六時
会場 港区内「なだしお」
参加者 五名

輪転機購入

本園では、今まで使用していた輪転機が十年を経過し、使用に耐えなくなっただけで、平成6年2月に機械を入れ替えた。

今までは、手はインキで汚れ、刷り上がりも悪く、何と言っても時間がかかりすぎ、欠点だらけで

施設の整備状況

本園

〈平成5・1~12〉

- ▼5・1 北病棟便器取替工事・ステレオセット
- ▼5・2 患者監視装置2代・X線自動現像機・ガス滅菌器・北、二階病棟トイレ修理
- ▼5・5 上記配管取替工事
- ▼5・8 ボイラー修理・ワープロ
- ▼5・9 尿分析器
- ▼5・10 ストレッチャー・二階病棟電気工事・窓サッシ取替工事・北病棟アコーディオンカーテン・ベットサイドキャビネット・吸引器・スツールロッカーカーテン(母子用)

あさしお園

- ▼0₂ボンベ ▼事務収納棚 ●

ゆうなぎ園

- ▼屋上倉庫新設 ▼給食室殺菌倉庫新設 ▼流し台入替 ▼小型パソコン導入

あった。

新しい機械はコピー機のご感覚で操作でき、時間ロスもなく、枚数が増せば増すほど短時間で印刷でき(コピーよりも相当早い)、コスト面でも非常に格安になった。同じ原稿を十枚以上コピーする時は、必ず輪転機を使用して下さい。使用方法については事務所まで!

大阪三施設親善 ソフトボール大会

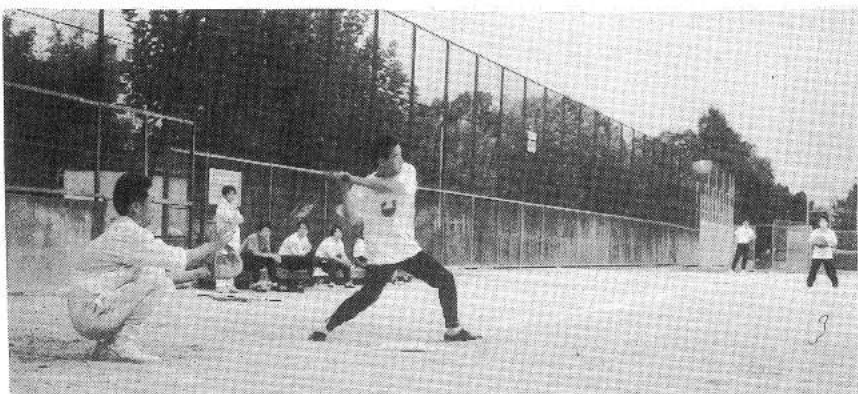
第十七回大会は、平成五年九月十八日(土)午後一時より大阪市長池グラウンドで行われた。

第十六回大会は打倒大阪整肢、今回は打倒大手前整肢!と意気込んだものの、大手前には惜敗、大阪整肢には完敗した。

大阪整15-9 大手前
大手前12-9 南大阪
大阪整19-1 南大阪

次回目標

打倒 大阪整肢!
打倒 大手前整肢!

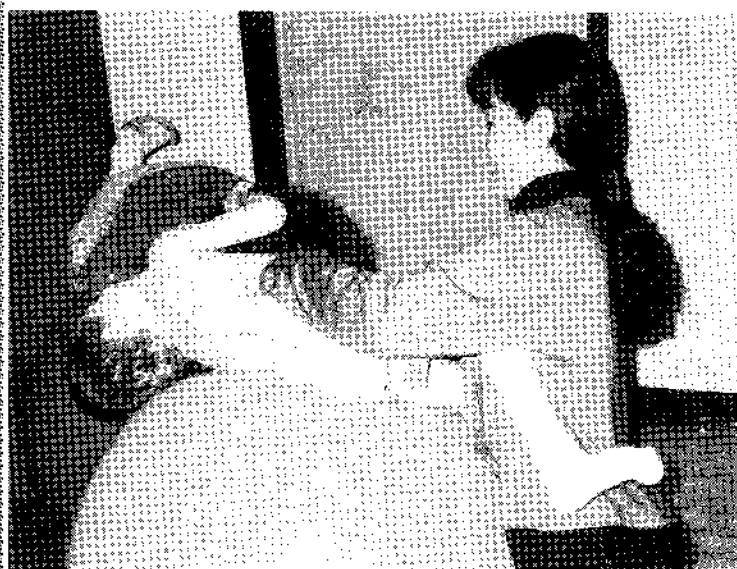


海外研修回顧録

訓練部 鶴田ゆかり

社会福祉法人・清水基金の第11回海外研修生として、平成5年4月12日より約5ヶ月間に渡って、海外で研修する機会を得ました。福祉国家スウェーデンで研修した。福祉国家スウェーデンで研修生会員が参加して合同研修が行われた後、個人研修に入り、アメリカ合衆国・カナダ・イギリス・スイスの4ヶ国10都市をまわってきました。アメリカ合衆国では、学会や講習会への参加、小児病院・施設での研修に加え、アメリカならではの個人開業している小児科領域の理学療法士に数多く出会い、その仕事ぶりを知ることでもできました。カナダ・イギリス・ス

イスでは、それぞれの国を代表する小児施設での研修が実現しました。もちろん、休日には美術館・博物館や旧跡巡りをしてその国の歴史や文化に触れたり、雄大な自然を堪能したりと、観光客として過ごすことも忘れてはいませんでした。今回の研修期間中に、講習会で知り合った理学療法士や作業療法士の自宅にホーム・ステイさせていただく機会に恵まれ、そこに住む人々の生活様式や考え方に直に触れることもできました。様々な民族・宗教が渦巻き、価値観が多様化する社会の中にあつて、自分の好みや考えをしっかりと持ち、



主張し、自分らしく生きようとする人々の姿勢と他人のそれを尊重

しようとする態度を強く感じることができました。

アメリカ合衆国とカナダの2国には、ビザ無し滞在期間ギリギリの3ヶ月間滞在し、いくつかの施設を訪れ、数多くの理学療法士と接することができました。これらの国では、小児科領域の理学療法(作業療法などそのほかの専門分野も含めて)は、教育と密接に結び付いていました。障害を持つ子供達の教育では、最も制限の少ない環境で教育することが望ましいとする考え方

から健全な子供たちとの統合教育が積極的に薦められながらも、その中で個々の子供の持つ障害や能力・可能性に対応した個別的教育プログラムを作成し、実施することが義務づけられています。当然のこととして、障害に対するアプローチー理学療法やそのほかの専門的な治療ーがその中に含まれているわけでは、理学療法の実施形態には問題がないわけではありませんが、理学療法士の多くが、学校という教育現場の中で、教師を含めた他職種とチームを組み、子供達の示す具体的で現実的な問題に対処していました。実際の治療場面では、どんな小さな子供に対しても、重度な子供に対しても、子供の人格を尊重するような理学療法士の徹底した態度にしばしば驚かされました。また、治療内容

や補装具・自助具から投薬や手術に至るまであらゆる事柄に関して、障害を持つ子供自身あるいは親の知る権利、選択・決定する権利が守られているといった印象を受けました。こうしてみると、治療技術に大きな差はないのですが、障害を持つ子供とその理学療法を取り巻くシステム、理学療法士の態度や在り方といった点でまだまだ学ばべきことが多いように感じます。

今回の海外研修は、小児科領域の理学療法士として知識や見聞を広める機会を与えてくれただけでなく、自分は何をしたのか、理学療法士としてどうありたいのか、どのように生きていのかを見つめ直す時間の余裕と刺激を与えてくれました。自分自身を見つめ自分らしくありたいと望む気持ちから、目の前にいる子供と親がどうありたいと望んでいるのかを考え、受け入れ、接することの大切さを知ることができたように思います。

長期間に渡る海外研修を快く受け入れ、ご援助くださった皆様に、心よりお礼申し上げます。この海外研修で得た貴重な経験を、愛する子供達に還元できるよう努めていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

臨床実習生・研修生の

受入状況

<H. 5. 1~12>

<診療部>

- ▼大阪歯科学院専門学校 3名 (H5・3・1~3・26)
- ▼大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校 延6名 (H5・5・10~5・28) (H5・6・15~7・3)
- ▼行岡医学技術専門学校歯科衛生士科 延11名 (H5・9・1~9・30) (H5・10・1~10・29) (H5・11・1~12・17)

<看護部>

- ▼大阪府立公衆衛生専門学校看護科 延83名 (H5・2・22~2・23) (H5・3・1~3・2)
- ▼大阪府立看護短期大学第一看護科 延23名 (H5・5・24~6・11) (H5・6・14~7・2) (H5・7・5~7・23)
- ▼大阪市立矢田障害者会館開設準備室 延11名 (H5・6・1~6・12) (H5・6・17~6・26) (H5・7・1~7・14) (H5・7・12~7・17) (H5・7・19~7・28) (H5・8・16~8・28) (H5・9・27~10・9)

<通園部>

- ▼浪速短期大学保育科 延6名 (H5・2・8~2・18) (H5・6・21~7・4) (H5・7・21~8・7)
- ▼千代田短期大学保育科 4名 (H5・5・31~6・10)
- ▼矢田障害者会館 延3名 (H5・7~8月)

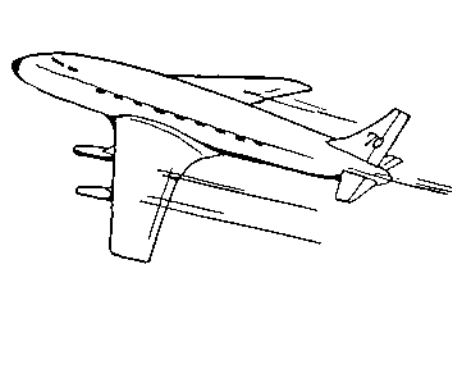
<あさしお園>

- ▼常盤会短期大学保育科 2名 (H5・10・18~10・13)
- ▼千代田短期大学 2名 (H5・6・23~7・3)
- ▼南海保育専門学校 2名 (H5・12・7~12・17)

<ゆうなぎ園>

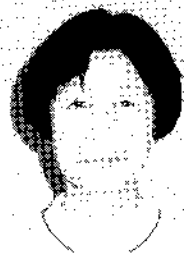
- ▼常盤会短期大学 1名 (H5・7・22~7・28)
- ▼日本福祉大会 1名 (H5・7・23~7・28)
- ▼大阪府立盲学校理学療法科 1名 (H5・5・31~7・21)

- (H5・5・31~7・21)
- ▼清恵会第二医療専門学校理学療法士科 1名 (H5・5・31~7・21)
- ▼行岡医学技術専門学校リハビリテーション科 延3名 (H5・5・31~7・21) (H5・8・30~10・20)
- ▼国立仙台病院附属リハビリテーション学院理学療法学科 1名 (H5・8・30~10・20)
- ▼神戸大学医療技術短期大学部理学療法学科 1名 (H5・8・30~10・20)
- ▼京都大学医療技術短期大学部理学療法学科・作業療法科 延3名 (H5・8・31~10・20) (H5・10・26~12・16)
- ▼国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科 延3名 (H5・10・25~12・15)



定年退職を迎えるにあたって

ケースワーカー 中村ヨシ子



昭和五十七年四月一日初出勤。ケースワーカーとしての初仕事。障害児との関わりは、ポランティアで、自閉症、ダウン症等の知的障害の子供達との取り組のみだったため、仕事としてこなせるのが全く自身はなかった。

前年の十一月、大阪府立大学、社会福祉学部長の右田先生より、梶浦先生に会ってくださるようにとの声を掛けられ、初めて肢体不自由児施設を知った。

施設見学の時、膝立ちで、訓練室のドアを一生懸命開けようとしている女児がいたが、誰もその手で手を貸そうとする職員はいなかった。

そのうち、扉を開けることができなくて出て行った。離れて見ていると、ひどく感動した事を覚えている。

「回りの職員は、その児ができる事を知っており、わざと手は出さなかつたのだと思う。又その児も、自分で何とか開けて病棟へ帰ろうとしていたのだろう。少しでも自分で出来る事はとてり、ゆつた

り待っている、そんな姿勢がじわじわと伝わってきた。五十七年当時の入園児は北病棟の四十八床のみだった事と、手術を園で行っていた事、全体にのんびりゆつたりと子供達に関わり、ほんのりとした雰囲気だった。土曜日は保母さん達が、病棟のガラスに楽しい絵を描き、子供達は観客でワイワイと絵に注文をつけていた。入園したばかりで泣いている幼児をクリーピングカーに乗った五年生の女の児が、たどたどしい言葉で一生懸命慰めていた。四肢まひで、食事もやっと一人で食べ、座位は長座位を設定すれば、何とか座れる程度、殆ど全介助の児だけだったに就職したばかりの私からみれば、自分の身体の事だけでも大変だろうとの思いで、思いやりの見事な事に感動した。

その事は今でも心に残る一つとなつている。就職して二年間は、ワーカーとしてこれで良いのだからかと悩む事が多く、眠れぬ日が幾晩もあり親のうつ状態がそのまま自分のものとなりそうまで医療ソーシャルワーカー協会の先輩達のアドバイスを随分頂いた。夜や土曜の午後の研究会があると聞けば、あらゆる研究会に臨んだ。十二年間、精一杯働く事ができたのは、色々な仕事をこなしてきたが、全てプラスとなり、この仕事が天職と思えた事と子供が大好きで、高校一年の折、幼稚園の先生をしたいと思いますと言った思い出が最後に子供のいる職場で働いた事にあるのか

もしれない。何よりも子供達から日やエネルギーを与えられたと思っている。夜遅く書きものをした疲れたと感じた時、病棟に行き子供達の声を聞くだけで元気が出た。泣いている児、元気に走り廻っている児、看護婦さんとトイレにいる児と様々だが、就寝前の病棟は、いつ見ても親に見せてあげたいと思う程ほのぼのとしたものがあつた。当園に就職するスタッフは子供が好きで一人一人の持つ力を一杯引き出し、当園と関わった事を親子共に喜んで頂きたい、そんな思いで日々仕事をしている。専門家として何処迄できるか、先ず自分を磨いて技術以前に人間性に惚れられ、改めて技術の素晴らしさに惚れられ南大阪療育園という処を知って本当に良かったと言われて欲しい。最近は大人の患者さんも増えてる。障害者を持った事で心を痛めておられる事と

れる事と。若輩で、その思いを受け止めるには荷が重すぎるかもしれない。人として誠意をもって当たれば、心は通じる。中身の無い、心の無い専門家にだけはなつて欲しくない。常に謙虚な心を持つ事を忘れないで欲しい。驕りは最大のマイナスとなる。

退職にあたり素敵な後輩に恵まれ頼もしい相談室となる事と思う。まだまだ若い二人、多くの人の援助をお願いしたい。

大下先生には、随分ご指導頂き、その分成長できた心から感謝している。西條先生、丸山事務部長、陰からの応援感謝でした。

ハンディを持って遅く生きていく人々に出会えた事、又強く明るく生きていくお母様達に出会えた事は幸せでした。

最後に心に残る事は、重度の十八才以上の入園生の生き方。昨日も

「来年養護学校の高等部を卒業するが、行く処は何処も無い。今度のように生きていったら良いのじゃないか」と相談された。此の種の相談はいつもつらいものがある。

重度の十八才以上の入園生は、養護学校を卒業すると家で、親とだけの生活を余儀なくされる。今、老人対策としてデイサービス等に力を入れているが、重度の障害を持つ若者達の行く場は殆どない。

民間の力にも限界がある。公的な立場から是非真剣に考え、取り組んで欲しい。

どのような人々も生きていて本当に良かったと思われ、そのような場が多くできる事を望んで止まない。

十二年間、私なりに全力投球して来た。大企業の秘書の仕事から始まって人と関わる仕事ばかり、四十年働き続けて来た。

退職後は、ひたすら「のんびり」と趣味に徹したい思っている。最近では、主婦業専門となる事にも憧れている。しばらくゆつたりとし、その後の生をどのように使うか考えてみたい。エネルギーを貯えられ、多くの職員に支えられ、無事、定年退職を迎える事ができ、感謝、感謝、感謝でした。ありがとうございます。

平成5年6月19日、ミナミの千日前ボウルで、有志の企画によりボウリング大会が開催され、当日はあいにくの雨天にもかかわらず、五十名を超える参加者のもと、意気盛んな大会が行われました。今回のゲームは、あらかじめ決められた点数に最も近い人が賞をもらえる。ニアピン形式で行われ、商品はまじゅう、果物、まんじゅう、雑貨などなど、すべて企画者の趣味と遊び心で設定された内容のものでした。

なごやかな雰囲気の中で始まった大会でしたが、終わってみれば闘志盛んなゲーム結果で、有志一同は「みんな楽しいひとときを過ごせた」と思い込んでおります。

有志の方々、参加くださった皆さん、ご協力ありがとうございました。また、いつの日か、突然湧いてくる企画にてお会いしましょう。

ボウリング大会 開催

平成6年度の休日が決まりました

1. 春の休日:

- (1) 南大阪療育園 平成6年5月1日(日)～8日(日)
 - * 5/2(月)は5/1の園の創立記念日が日曜日と重なった為、国民の休日に準じて振替えることとした。
 - * 5/6(金)は4/29(祝)を振替える。
 - * 5/7日(土)は一斉週休とする。
- (2) あさしお園・ゆうなぎ園 平成6年4月29日(祝)～5月5日(祝)
 - * 4/30(土)は一斉週休とする。
 - * 5/2(月)は5/1の園の創立記念日が日曜日と重なった為、国民の休日に準じて振替えることとした。

2. 夏の休日:平成6年8月14日(日)～21日(日)

3. 年末年始の休日:平成6年12月29日(木)～平成7年1月3日(火)

4. その他の休日:

- (1) 南大阪療育園 下記により振替え、他は暦どおりとする。

振替休日	振替出勤日	
9月12日(月)	9月15日(木)	敬老の日
9月19日(月)	9月23日(金)	秋分の日
10月31日(月)	11月3日(木)	文化の日
11月21日(月)	11月23日(水)	勤労感謝の日
12月19日(月)	12月23日(金)	天皇誕生日
3月20日(月)	3月21日(火)	春分の日

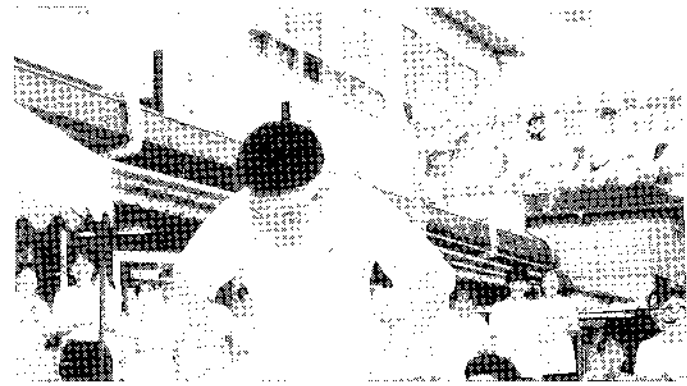
- (2) あさしお園・ゆうなぎ園 暦どおりとする。



園内行事

看護部

- ▼1月21日 焼いも大会
雨が多くて、予定通りに行きませんでした。何とか北病棟で行いアツアツの焼いもを二階病棟へもお裾分けして楽しいひとときを過ごしました。
- ▼5月15日 春の遠(長居公園)
バラ園とともに公園いっぱい咲く花がとても美しく、それに見とれて全体の集合にも少し時間がかかってしまいました。
入園間もない保護者の方々の顔合せにもなり親交を深める機会にもなった一日でした。
- ▼7月24日 長居プール
残念ながら雨のため中止
- ▼8月6日 夏祭り
子供達の練習も充分で、カラオケ大会では元気いっぱい実力を発揮しました。
- ▼10月2日 運動会



好天に恵まれ、訓練、学校、病棟が一体となり練習、訓練の成果を存分に発揮しました。また、赤組と白組の応援合戦は実力伯仲で火花を散らし合いました。

- ▼10月30日 秋の遠足
残念ながら雨のため中止
- ▼12月11日 生活発表会
三週間みっちり練習や準備に取り組み、どのグループも素晴らしい演技を見せてくれました。
最後にサンタクロースが登場し一人一人にプレゼントを手渡し、とても盛り上った生活発表会でした。

▼病棟全体の行事は以上の通りですが、各病棟毎に、毎月第三金曜日にお誕生日会を行い、子供達とともにいろいろなことを計画し楽しみました。また、学校の夏休み期間中にはボランティアの協力を得て、子供達を小グループに分け長居身障者スポーツセンターでボーリングやプールの楽しみました。

病棟保育

- ▼2月6日 保育参観(合同保育)
 - ▼3月19日 卒園式
 - ▼6月19日 保育参観(クラス別)
 - ▼9月11日 保育参観(合同保育)
 - ▼11月20日 保育参観(クラス別)
- 病棟保育では、年四回土曜日に保育参観を行い保護者の皆さんにお子様の成長をみて頂きました。また、園外保育も行い、時には教会のお庭でお花見をしたり、落葉を楽しみながら給食で作って貰ったおいしいお弁当を楽しみ園外保育を行いました。

通園部

- ▼1月下旬 クラス参観・懇談
- ▼2月初旬 個人懇談
- ▼3月23日 卒園式

- ▼4月1日 説明会
- ▼4月2日 入園式
- ▼5月11日 春の遠足(東農園)
- ▼6月下旬 クラス参観・懇談・個人懇談



- ▼7月10日 夏祭り(親の会主催)
- ▼7月15日 長居プール
- ▼9月15日 父親参観
- ▼10月17日 運動会(南田辺小)
- ▼10月26日 秋の遠足(阪神パーク)
- ▼11月初旬 焼いも大会
- ▼12月3日 園外保育(5才児)
- ▼12月23日 お楽しみ会

あさしお園

- ▼1月23日 もちつき大会
- ▼3月23日 卒園式、お別れ会
- ▼4月2日 入園式
- ▼5月17日 春の遠足(阪神パーク)
- ▼7月31日 夏祭り
- ▼8月31日 南港プール
- ▼9月5日 1日療育体験
- ▼10月17日 運動会
- ▼10月26日 秋の遠足(西端園)
- ▼12月5日 生活発表会

ゆうなぎ園

- ▼12月23日 父親保育参観(年少)
- ▼12月24日 クリスマス会
- ▼1月8日 たこあげ大会
- ▼1月23日 もちつき大会
- ▼2月5日 雷あそび
- ▼3月22日 卒園式
- ▼4月3日 入園式、始業式
- ▼5月21日 春の遠足(いちご狩り)
- ▼5月30日 親子の集い(ゲーム大会、両親教室)
- ▼6月24日 港めぐり(大阪港遊覧)
- ▼7月24日 25日 合宿
- ▼9月12日 日曜参観(5才児)
- ▼10月16日 運動会
- ▼10月24日 日曜参観(2・3才児)
- ▼10月29日 秋の遠足(生駒山)
- ▼11月13日 合同保育(クッキー作り)
- ▼11月22日 クリスマス会
- ▼11月28日 生活発表会



町ぐるみ 対話で広げる 防火の輪

消防訓練の実施

平成五年年度の自衛消防訓練を次の通り実施した。

本園

- ◆第一回 平成五年四月二十六日
▼訓練内容
夜間を想定した避難訓練(北病棟)・通報訓練(北病棟)・放水訓練(各部署より計八名)
- ◆第二回 平成五年十月十八日
▼訓練内容
避難訓練(二階病棟)・通報訓練(二階病棟)・消火訓練(各部署より計六名)

あさしお園 ゆうなぎ園

- ◆出張講座(救急法)
講師 港消防署係官 三名
受講者 あさしお園職員十八名

自衛消防訓練

- ◆第一回 平成五年四月十五日
▼避難訓練 はしご車のデモンストラクション
- ◆第二回 平成五年十月二十一日
▼避難訓練

それぞれの訓練には管轄の東住吉、港消防署から担当者が訓練指導のため来園、適切な助言を受け意義のある訓練を計画通り終了しました。

